



6月に日比谷公園で「アフリカフェア」を開催

アフリカ 2月21日(水)
(写真左から)ヴェネチア・セブダンディ 駐日ルワンダ大使
アホメド・アライタ・アリ 駐日ジブチ大使
ソロモン・カラランジャ・マイナ 駐日ケニア大使
ンディオイ・ムリワナ・ムティティ 駐日ザンビア大使

志村理事長を訪れて、6月に日比谷公園で開催される「アフリカフェア(仮称)」の概要を説明し、「アフリカ諸国の認知度向上を図るため、駐日アフリカ外交団のメンバーが参画したもので、JATAにも参加をお願いしたい」と要請。志村理事長は、参加について積極的に検討する意向を伝え、「ツーリズムEXPOジャパンへの出展やデスティネーション・セミナーの開催なども併せ、一連のプロモーション活動としてフェアを実施すれば、認知度のさらなる向上につながる」とアドバイスしました。



マレーシア近郊にあるスカイミラーの商品化を

マレーシア 3月23日(金)
ノールル・アシキン・ビンティ・モハド・ディン セランゴール州観光局局長(写真中央右)

JATA本部を訪問し、「クアラルンプール近郊のスカイミラーを含めたツアーを旅行会社に商品造成してほしい。ソーシャルメディアでのPRに加え、ファムツアーなども実施して旅行業界の関心を高めたい」と説明。越智事務局長は、「新しい観光資源の紹介によって日本人旅行者の増加が期待される。研修旅行の実施やセミナーの開催に協力していきたい」と応じました。



日本での観光局設置を目指したい

オマーン 3月28日(水)
ハリッド・アルムスラヒ 駐日オマーン大使(写真中央右)

田川会長を訪れて、「オマーンは歴史や文化遺産が豊富で、観光インフラの整備も進んでいる。日本からの直行便はないが、日本での観光局開設を目指したい」と説明。田川会長は、「プロモーションや日本語ガイドの育成に取り組んでいただき、ツーリズムEXPOジャパンへの出展なども通じて、業界と消費者の双方にアプローチしてほしい。日本市場の担当者任命も効果が高い」とアドバイスしました。

要人往来

日本人旅行者の増加や新規需要の開発に向けて、各国が日本市場に熱い視線を向けています。旅行業界としても、その思いに応えられるよう努力と工夫を重ねていかなければなりません。



人気の高い北部は治安も安定

パキスタン 3月12日(月)
アサド・マジード・カーン 駐日パキスタン大使

志村理事長を訪問し、「イスラマバードや日本人に人気の高い北部は治安が安定している。日本人旅行者の増加に向けて、JATAの協力をいただきたい」と要請。志村理事長は、「日本からのツアー催行に向けて、危険レベルの引き下げを働きかけてください。JATAとしても視察旅行の実施やセミナーの開催に協力したい。ツーリズムEXPOジャパンへの出展も積極的にご検討ください」と応じました。



11月末にガストロノミー・ウィークを開催

ロシア 3月15日(木)
ゲリプターマン・レオニド ワイン・ガストロノミー国際センター会長(写真中央)

志村理事長を訪れ、「ロシアが重視しているガストロノミー・ツーリズムに関心の高い市場に向けて、情報を発信したい。今年11月末にはロシア・ガストロノミー・ウィークの開催を予定している」と説明。志村理事長は、「ツーリズムEXPOジャパンへの出展や日本語ホームページでの最新情報提供などで、日本人旅行者の関心も深まる」と応えました。



双方向交流と直行便就航に取り組む

イスラエル 4月4日(木)
ヤッフア・ベンアリ 駐日イスラエル大使

菊間副会長を訪問し、「2017年は日本人旅行者が前年比で50%以上増え、2018年も増加傾向が続いている。大使館として、双方向交流の拡大や直行便の就航に取り組んでいきたい」と説明。菊間副会長は、「ツーウェイ・チャーターの実施を通じて、定期便の就航も期待できる。JATAとして、会員会社のツアー造成をサポートしていく」意向を伝えました。